



【発行所】  
群馬県森林組合連合会  
前橋市上大島町182-20  
TEL.027(261)0615(代)

【制作・印刷】  
株式会社総合PR  
前橋市元総社町936-4  
TEL.027(253)8331(代)

## INDEX

新年のごあいさつ	1~5	森林組合職員研修会 「Jクレジット制度勉強会」開催	6~7
群馬県森林組合連合会 代表理事会長 八木原 勇治	1	林業事業体初任者育成研修 開催	7~8
群馬県知事 山本 一太	2	職員連盟総会 4年ぶりに従来形式で開催	9~10
群馬県環境森林部長(兼) グリーンイノベーション推進監 須田 恵理子	3	第54回群馬県優良素材展示会 開催	10
関東森林管理局長 志知 雄一	3~4	森林の仕事ガイダンス(東京・群馬) 開催	11
全国森林組合連合会 代表理事会長 中崎 和久	4~5	全国森林組合代表者大会 開催	11~12
農林中央金庫 前橋支店長 竹下 佳郎	5	全国森林組合職員連盟 全国研究集会 松江市で開催	12
森林組合中堅職員研修会 開催	6	あとがき	12

## 新年のごあいさつ

群馬県森林組合連合会  
代表理事会長 八木原 勇治



新年あけましておめでとうございます。

平素は弊会運営にご理解ご協力賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年5月には新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、徐々にではありますが社会経済活動が正常に戻りつつ

あります。しかしながら、ロシアによるウクライナ侵攻やイスラエル・パレスチナ情勢、急激な円安・物価高などの影響がまだまだ懸念されております。

こうした中、森林整備を支える財源である森林環境税・森林環境譲与税につきましては、本年4月から徴税が始まりま

す。本会でも群馬県及び市町村と連携し、また会員組合と情報を共有しつつ、森林整備を進めることを目的とした森林経営管理制度の推進に努める所存でございます。この推進にあたっては森林境界不明地や所有者不明への対応、また路網整備などの木材生産に必要な課題も多くありますが、ICT技術を活用し、施業の集約化と群馬県産材安定供給体制構築を確立し素材生産量増大を目指すとともに、群馬県森林・林業基本計画の目標達成に向け取り組んで参ります。

終わりに皆様の本年のご健勝ご多幸をお祈りするとともに、森林組合系統事業への格別なるご指導ご鞭撻をお願い申し上げます、新年のご挨拶といたします。

本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

# 新年のごあいさつ

群馬県知事  
山本 一太



明けましておめでとうございます。県民の皆さまには、新春を健やかに迎えの心からお慶び申し上げます。知事としての2期目がスタートして5ヶ月が経ちました。新年を迎え、改めて県政を担うことの重責に身の引き締まる思いであり、皆さまの負託に全身全霊で応えていきたいと決意を新たにしています。

昨年、原油価格や食料品などの物価高騰への対応など、県民生活や事業者を支えるための対策に全力を注ぐとともに、約3年に及んだ新型コロナとの闘いを乗り越え、新しい群馬を創るための取り組みを進めた1年でした。特に、群馬県で初めて誘致に成功した「G7(セブン)群馬高崎デジタル・技術大臣会合」の開催は、群馬県が重要な国際会議の開催地となりうることを示すことができたと考えています。

また、新たな地域交通システムである「GunMaas(グンマース)」のサービスを開始することができました。将来的には県内全域でサービスを展開し、県民の利便性を向上させるものです。高齢者や免許を持たない学生など、自家用車がなくても、いつでも外出できるような持続的な公共交通への転換を進めていきます。

さらに、海外の先進的な取り組みを採り入れ、群馬県がさらに発展する道を開くため、独自の地域外交を積極的に展開しました。昨年は、国を挙げたコンテンツ振興で成果を上げている韓国、経済発展が著しく有望な投資先として注目されるベトナム、非認知能力を育てるSEL教育の先進地であるスコットランド、世界最先端のデジタルクリエイティブ企業が集まるアメリカを訪問いたしました。外国政府や企業とのハイレベルな人脈を構築するとともに、知事自らによるトップセールスにより数多くの知見を得ることができました。これらを群馬県の活性化につなげていきます。

この他、いわゆるワイズスペンディングの考えに基づき、行財政改革にも注力しました。これにより、大きな予算を必要とする、高校生世代の医療費無料化、老朽化した小児医療センターの再整備、利根川新橋の整備など、将来を見据えたさまざまな事業を決断することができました。

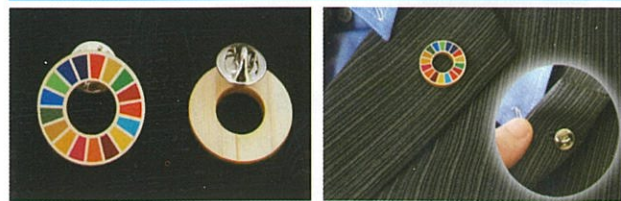
本年も、新・群馬県総合計画ビジョンに掲げた「すべての県民が、誰一人取り残されることなく、自ら思い描く人生を生き、幸福を実感できる自立分散型の社会」の実現に向けて、あらゆる分野で群馬の強みを活かした独自の「群馬モデル」を立案、実行、発信していきます。厳しい時代にあっても誰もが健康で豊かに暮らせるよう、これまでにない新しい発想で、群馬県から日本を変えていくという「攻めの姿勢」で県政を前進させていく覚悟です。

新しい年が県民の皆さまにとって実り多き素晴らしい1年になりますよう、心からお祈り申し上げます。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsの木製ピンバッジご購入のご相談をお受けしております



### SDGs (持続可能な開発目標) とは?

SDGsとは、Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の頭文字から生まれた造語です。2015年の国連サミットで採択された国際目標で、持続可能な開発目標として17のゴールと169のターゲットから構成されています。

# 新年のごあいさつ

群馬県環境森林部長  
(兼) グリーンイノベーション推進監  
須田 恵理子



新年あけましておめでとうございます。

群馬県森林組合連合会の皆様には、輝かしい新年をお迎えの心からお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置付けられ、各業界では経済活動が再開され盛り上がりを見せました。

一方、国内外各地で、気候変動の影響によると考えられる異常気象や自然災害が発生し、群馬県内でも7月と8月の降雹は、農作物や農業用施設を中心に、大きな被害をもたらしました。

森林・林業分野では、国が花粉症対策初期集中パッケージを策定し、スギ人工林の伐採、植え替え等を加速化させる見込みです。森林環境譲与税は譲与基準の見直しの検討が行われており、また、森林環境税は令和6年度から徴税が始まるなど、森林・林業をめぐる情勢は大きく変化しております。

群馬県では、今年度、林政課に「林業イノベーション推進室」を設置し、地域機関には、「林業政策専門官」を配置する組織改革を行いました。木材流通・加工体制の強化、スマート

林業等の新技術による低コスト化・労働環境の改善、異分野との連携による森林の新たな価値の創出などの施策を進め、「関東一の林業県」に向けて、群馬県産木材の需要創出と生産体制の構築を両輪とする林業改革に取り組んで参ります。森林を適正に管理し、林業・木材産業の持続性を高めながら成長発展させることで、2050年カーボンニュートラルも見据えた豊かな社会経済の実現が求められています。森林組合系統におかれましては、地域林業の中心的な担い手として、森林を適切に利用・保全すると同時に、群馬県産木材の安定供給と山元への一層の利益還元を進めていただきたいと思います。

また、貴連合会では、スマート林業、林業デジタル化の取組や会員組合に向けた研修や人材育成を積極的に進めるなど、「JForestビジョン2030」の目標の達成に向けて取り組まれています。持続可能な林業経営のため、今後、より一層活動を活性化されることを期待しています。

県といたしましても、群馬県の林業・木材産業の発展のため全力で取り組んで参りますので、引き続き皆様の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、群馬県森林組合連合会の皆様にとって幸多き年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年の御挨拶とさせていただきます。

# 新年のごあいさつ

関東森林管理局長  
志知 雄一



新年明けましておめでとうございます。

群馬県森林組合連合会並びに会員の皆様には、日頃より関東森林管理局の業務運営はもとより、林野行政全般にわたり、ご理解とご協力をいただいております。誠にありがとうございます。

昨年は梅雨時の大雨を始めとする自然災害が全国各地で発生し、甚大な被害が生じ、関東森林管理局管内においても台風等により各地で土砂崩れ等の被害が起きました。被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。また、現在まで現場で復旧・復興にご尽力されている関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。

近年、二酸化炭素の吸収源や豪雨災害時の国土保全機能、また国産材の供給源として森林・林業の重要性が認識され、国民の皆様の関心も高まってきていると感じております。

また、戦後に植林された森林が利用期を迎えるとともに、花粉症が大きな問題となっており、10月には「花粉症対策初期集中対応パッケージ」が取りまとめられ、スギ人工林の伐採・植え替え等を進めることとされました。

関東森林管理局では、多様な森林づくりなど公益重視の管理経営を推進するとともに、花粉症対策としても重要な「伐って、使って、植えて、育てる」循環利用を進めてまいります。そのためには、伐採から再造林・保育までの林業の収支をプラスに転換する「新しい林業」の展開が必要であり、造林の低コスト化・省力化、生産事業の効率化、シカ被害対策等に取り組むとともに、その成果を民有林の皆様と共有し、地域の林業振興へ貢献してまいります。

また、木材需要の確保も重要です。輸入材のリスクの顕在化によって、国産材利用の機運が高まる中、海外からの供給

変動の影響を受けにくい需給構造への転換を目指し、関東森林管理局といたしましては、地域の需要動向を注視しながら、計画的・安定的な国有林材の供給に努めてまいります。

国有林は、国民共通の財産であり、国土の保全や林産物の供給、地域住民への貢献等多くの役割を担っております。関東森林管理局といたしましては、国有林の使命を踏まえながら、引き続き皆様方をはじめ、地域の方々の御意見・御要望をよく伺いし、連携を図りながら、その期待に応えられるよう適切に管理経営を進めてまいりたいと考えておりますので、より一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、群馬県森林組合連合会並びに系統森林組合の益々のご発展と会員皆様のご健勝、ご多幸を心から祈念申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。

# 新年のごあいさつ



年頭に当たり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。旧年中は、弊会の業務運営につきまして格別の御高配を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、新型コロナウイルス感染症が昨年5類に移行し、社会経済活動の正常化が進む一方、長期化するロシアによるウクライナ侵攻や緊迫するイスラエル・パレスチナ情勢、急激な円安・物価高などの影響が懸念されております。また、集中豪雨や相次ぐ台風等により全国各地で災害が頻発しており、被災された方々に衷心よりお見舞い申し上げます。弊会といたしましては、政府に所要の要請を行うとともに、早期復旧と「緑の国土強靱化」による防災・減災が進むよう取り組んでまいります。

こうした中、森林整備を支える財源である森林環境税・森林環境譲与税につきましては、いよいよ4月から森林環境税の徴税が始まります。森林環境税に対する国民の皆様のご理解を得るためには、各都道府県・市町村に配分された森林環境譲与税を余すことなくしっかり活用して地域の森林整備等を進めることが何よりも大切です。全国の森林組合系統の皆様

## 全国森林組合連合会 代表理事会長 中崎 和久

様におかれましては、引き続き地元都道府県及び市町村と連携して、有効活用を進めていただくようお願い申し上げます。

また、政府においては花粉症に関する関係閣僚会議を設置して花粉症対策を強く打ち出し、先般成立した令和5年度補正予算及び閣議決定された令和6年度当初予算案において所要の額が計上されているところです。この中には花粉発生源対策として、花粉の少ない森林への転換促進対策が盛り込まれており、森林組合系統にはその担い手として高い期待が寄せられております。森林組合系統運動「JForestビジョン2030」においても、循環型林業の確立を掲げ、系統全体で主伐再造林に取り組むこととしており、花粉発生源対策の取組と合わせて推進していく所存です。

一方で、昨今の少子高齢化等の影響を受け、森林整備等を担う人材の確保が全国的な課題となっております。弊会では、これまで林野庁補助事業「緑の雇用」事業の実施主体として、全国の森林組合をはじめとした林業経営体の人材確保・育成を支援して参りました。加えて、弊会が事務局を務める一般社団法人林業技能向上センターでは、林業に関する技能検定制度の創設に向け、昨年は全国7か所で「技能評価試験」を実施いたしました。また、昨年からは林業に関する技能検定制度を活用した外国人材の技能実習2号の追加に向けた取組も実施しているところです。

昨年4月にエストニアで行われた世界伐木チャンピオンシップ(WLC)では、初めて日本人選手が種目別でメダルを獲得したという嬉しいニュースがありました。今年も弊会が中心となり、第5回日本伐木チャンピオンシップ(JLC)の開催を予定しており、多くの選手が切磋琢磨し、現場技能者の技術や地位の向上、安全対策の推進に資することを期待しております。

SDGsの達成やカーボンニュートラル社会の実現に向けては、本会と農林中央金庫の共同で森林組合系統によるJ-クレジット制度への取組をサポートするプラットフォーム(FC BASE)を昨年3月に立ち上げ、多くの森林組合及び

森林組合連合会が登録し、取組を進めているところです。現在は、J-クレジットの創出に向けた支援機能が中心となっていますが、本年よりクレジットの販売機能も実装し、森林由来のJ-クレジットについてより多くの企業が興味・関心を持ってもらえるよう取組を強化して参ります。

今後、弊会では系統関係者及び関連団体とともに、人材の確保・育成、森林資源の循環利用、国産材利用促進等に向け、役職員一同精進する所存ですので、倍旧の御指導、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとって幸多き一年となりますよう祈念申し上げます、新年の御挨拶といたします。

# 新年のごあいさつ



新年を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。群馬県森林組合系統役員の皆様には、日頃より、森林・林業および森林組合系統の発展のために格別のご尽力をいただいておりますことに対し、心より敬意を表する次第であります。また、私ども農

林中央金庫の業務につきましても、平素より格別のご理解・ご協力を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は新型コロナウイルスが5類感染症に移行し、行動制限の撤廃により経済が正常化に向かいはじめました。一方、海外情勢においてはロシアによるウクライナ侵攻に伴う混乱により、我が国においても、急速な円安の進行、物価の高騰が巻き起こり、各界において厳しい経営環境に置かれました。

森林・林業においても、ウッドショックによる木材価格の高騰は一過性のものとなり、依然として厳しい状況が続いています。一方、気候・環境分野では、2050年までのカーボンニュートラル実現を目指す動きが国際的に広まり、環境問題解決に向けた投資も加速しています。本邦においても、GHGの排出量削減が企業の社会的責任として一層求められる中、森林由来のCO2吸収効果に注目が集まり、企業側が森林・林業との結び付きを強化しようとする動きが高まっております。

こうした中、弊庫では、2030年中長期目標として、「農林中央

## 農林中央金庫 前橋支店長 竹下 佳郎

金庫投融資先等のGHG排出量削減▲50%(2013年対比)」と「農林水産業者所得の増加」を掲げ、系統一体となった脱炭素社会の実現並びにそれを支える施業担い手の所得向上を目指しております。

「JForest群馬県ビジョン2030」の中で、森林組合の持続的安定経営の支援強化の一環として弊庫との連携を掲げていただいたところですが、弊庫におきましても群馬県森林の多面的機能の更なる発揮、林業担い手への付加価値の還元に向けたご支援に努めて参る所存です。昨年は、労働安全装備品の購入費用助成、国産材利用拡大に向けた木製品寄贈活動、系統リース会社活用のご提案等を実施させていただきました。加えて足元では、森林由来のJクレジットを山元への収益還元の機会と捉え、全国森林組合連合会と共にプラットフォームを立ち上げ、創出・販売に向けた支援を行っているところです。

昨年12月に弊庫は設立100周年を迎えました。次なる100年においても、会員である皆様に寄与し続ける組織であるため、日々改善を繰り返す所存でございます。そのため、日頃のご協力に改めて感謝申し上げますと共に、弊庫各種施策に対する忌憚のないご意見・アドバイスを頂戴したくお願い申し上げます。今年も、多くの現場に足を運び、微力ながら森林組合系統の取組をサポートさせていただければと存じますので、今後ともご厚誼を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

結びに、群馬県森林組合系統の益々のご発展と、皆様の一層のご健勝・ご活躍を心よりご祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

## 森林組合中堅職員研修会 開催

11月8日に、森林組合の主任・係長級職員を対象に、組織の次世代を担う中堅職員の資質向上を目的とした「森林組合中堅職員研修会」を系統職員20名の参加で開催した。



▲株式会社インソース 近藤講師

研修講師には株式会社インソースより近藤章功氏を招き、講義、個人・グループ演習などを取り入れたプログラムでの研修会となった。

研修冒頭には、「リーダーに求められる役割」とは？について、個々に「リーダーの仕事とは何か？」などを考え書き出し、その後、グループ内で意見を出し合い、グループ毎に発表と共有を図った。ここでは、リーダーはメンバー育成と業務改善に繋げるために、チームをどのように動かし、業務での問題点を見つけ、改善・解決策を考え、主導していく事がリーダーの重要な役割という結論となった。また、リーダーとしての振る舞いや、高い倫理観を持った考え方などのほか、スケジュール管理については逆算思考を持つことも必要とされることなども理解できた。

それ以外にも、目標設定やその目標のメンバーへの共有、メンバーの育成、PDCAサイクルでの進捗管理による効率的な業務の実施などが挙げられた。また、業務改善の原因追



▲中堅職員研修会

究の事例として、トヨタ生産方式の「なぜなぜ5回」の紹介があり、しつこく「なぜ？(why)」を5回繰り返して問い詰めていくことにより、表面的な原因ではなく、真の要因「真因」がわかり、同じ問題が二度と起こらず、仕事の質も製品の質も向上するという考え方である。このように、表面上に現れた結果を処理する事も必要だが、それだけでは再度同じミスに悩まされることになり、なぜミスが起きたのか、仕事の進め方に遡って原因を除去するという考え方も必要と説明があった。

今回の研修では、リーダーとしての役割・メンバー育成・業務の円滑化・業務改善などの考え方の必要性を学ぶことができた。立場や人により考え方は様々だが、メンバーとコミュニケーションを図り、お互いの考え方を理解する事が最も重要な事と認識できた研修会となった。



▲グループワーク



▲演習

## 森林組合職員研修会「Jクレジット制度勉強会」開催

去る9月15日、森林組合職員研修会（Jクレジット勉強会）を開催した。

この勉強会の講師には、全国森林組合連合会 組織部宮城担当部長を招き、国や地方自治体のカーボンニュートラルの情勢、J-クレジット制度の概要などと、実際に森林

クレジットを発行するための要件・プロセス・モニタリング方法及び国の支援策等についての説明が行われた。

森林組合系統で森林クレジットを発行する要件としては、対象森林が森林経営計画の策定地であり、登録申請年度から最短18年間～最長26年間の永続的な森林管理を

担保するための森林経営計画の更新・維持が必要となる。その上で森林所有者の合意や、対象森林の過去の施業履歴、今後の森林管理・施業実施計画とモニタリングなどが必要となる。このモニタリングで、その森林の地位を特定し実際のCO2吸収量と木の成長量を算出すること



▲全国森林組合連合会 組織部 宮城担当部長

ができる。なお、森林由来クレジットの発行価格については、再エネ発電や省エネ等と比較すると高額ではあるものの、森林管理や森林所有者の合意等、手間とコストがかかるほか、1名当たりの所有面積が小規模となるため、「少量・高価格」となる。

このように、森林クレジットを発行するには、対象森林のモニタリング実施や登録・認証審査にかかる費用などの収支を加味し、それに見合った実施面積を確保することも重要となる。

また、森林クレジットを創出できたとしても、クレジットの

購入者がいなければ、この費用の回収や安定した森林整備等の推進ができない。このため、全国森林組合連合会や農林中央金庫では、森林由来クレジットの販売マッチングWebサイト「FC BASE (エフシーベース)」を開設し、販売者となる森林組合系統とクレジット購入者との仲介サービスを開始した。

本会としても、森林の公益的機能の維持増進に向け、適切な森林管理を推進して行く上で、森林組合系統の持続可能な自立した林業経営の実現を目指すべく、森林由来のJ-クレジット制度に積極的に取り組んで行く方針である。



▲J-クレジット制度勉強会

## 林業事業体初任者育成研修 開催

12月2日からの4日間に、群馬県の主催により「林業事業体初任者育成研修」が開催された。今回は、高崎市の県立農林大学校を会場に、県内林業事業体から15名の参加により、森林施業プランナー育成研修として、プランナーに必要な知識・技能の習得と路網設計・選木技術・施業プラン書の作成など幅広い研修として実施した。

※森林施業プランナー協会の「協会認定一次研修」として実施した。



▲初任者研修会

開講式では県林業振興課竹内室長より、森林資源を循環利用する「持続可能な林業経営の確立」を推進するための技術者として、将来の森林施業プランナーとしての活躍に期待を込めた挨拶が行われた。

研修初日は、まず県森連より「提案型集約化施業と森林施業プランナーの役割」と題し、日本の森林林業の現状から提案型集約化施業の必要性・役割、認定制度やプランナーの課題などについて説明があった。その後、烏川流域森林組合 石井主任より、実際の集約化施業の取り組み状況や課題についての説明が行われた。また、県林業振興課 小島主幹専門員より森林経営計画の概要などについて説明が行われた。

研修二日目は、多野東部森林組合 浦部参事を講師とし、集約化施業に必要な路網開設について講義を行ったうえで、路網の目的・路網設計のポイント・路網配置計画の作成手順・現地踏査時の確認ポイントなどについて説明があり、机上で個々に路線配置計画を図面に落としこみ、班ごとに路線計画を



▲多野東部森林組合 浦部参事

検討した。その後、実習地へ移動し現地踏査を行い、机上での路網配置計画と現地調査結果から路網配置ルートを確認し、現地の状況や作業効率等を考慮した路線計画を再検討した。



▲グループワーク

研修三日目は、YForestry 横山代表を講師とし、「目標林型と育林技術」、「施業団地設計」をテーマに、現地の森林調査実習を行った。現地では、プロット調査方法から間伐方針や間伐対象木の選木方法などを確認し、班別に分かれ森林の現況調査を実施した。

その後、調査結果をもとに施業団地の目標林型や作業システムを検討し施業プラン書の作成と班毎の発表と意見交換を行った。



▲YForestry 横山代表



▲森林調査実習

森林とともに80年

# 森林保険

台風や集中豪雨、火災など万が一の災害に備えることができます。

森林保険は、「森林保険法」(昭和12年法律第25号)等に基づき、森林所有者を被保険者として、森林についての火災、気象災、噴火災による損害を総合的に補償するものです。森林所有者が自ら災害に備える唯一のセーフティネットです。

〈保険金のお支払いの対象となる8つの災害〉

- 火災
- 風害
- 水害
- 雪害
- 干害
- 凍害
- 潮害
- 噴火災

お問い合わせは、お近くの森林組合、または森林組合連合会へ

群馬県森林組合連合会：〒379-2153 群馬県前橋市上大島町182-20  
TEL:027-261-0615 FAX:027-261-0697

## 職員連盟総会 4年ぶりに従来形式で開催

群馬県森林組合職員連盟の第74回定時総会が11月9日、みなかみホテルジュラクで開催され、4年ぶりの従来形式での開催となり50人を超える会員が参加した。

総会では冒頭、職員連盟吉野昇会長が「今年度は5月にコロナウイルス警戒度が引き下げされたことにより、久しぶりの県外視察研修が実施できたこと等会員相互の交流親交が深められとてもよかったと思う。次年度の役員さんにもぜひ研修や交流機会を企画いただき、親睦を深められるようお願いします。」とあいさつした。また、県森連八木原勇治会長、地元利根沼田森林組合外山京太郎組合長、群馬県林業振興課竹内忠義室長、全国職員連盟事務局関口和子様から来賓祝辞をいただいた。



▲吉野会長挨拶

総会議長には上野村森林組合飯野実さんが選任され、上程された令和4年度事業報告および収支決算、令和5年度事業計画および収支予算案が承認された。また永年勤続退職者表彰を以下のお三方が受けた。

- ▷ 塚越里美さん (赤城南麓森林組合)
- ▷ 柳澤由美子さん (下仁田町森林組合)
- ▷ 小井土和代さん (鐮川東部森林組合)

なお、役員改選により令和5・6年度の職員連盟新役員が別表のとおり選出され、栗原和人さん(桐生広域森林組合参事)が会長に互選された。

総会終了後の記念講演会では(一社)日本協同組合連携機構 主任研究員 阿高



▲上野村森林組合 飯野議長



▲栗原新会長

あや氏から「SDGsと協同組合における女性の活躍推進」と題して講義いただいた。

阿高先生は、農協や生協等協同組合の研究や教育に全国を飛び回り取材や執筆活動等で多忙のなかにも、3人の育児をこなし、かつ大学院博士過程に在学中という、スーパーキャリアウーマンであり、まさにテーマの実践者である。



▲(一社)日本協同組合連携機構 阿高氏

- ▷ 組合に関する意識調査から、我が国における協同組合への加入率は、個人ベースでも世帯ベースでも約50%であり、組合員は一般の人々に比べてSDGsに対する関心や農産物の国産・地元産思考が高いことが明らかになった。
- ▷ 日本の労働力不足が急速に進むなか、高齢者と女性人材を活用できるか否かが今後の労働力確保においては重要。今日的労働力確保については、高齢者、女性の他、障がい者、外国籍者、出産・育児・介護・加療を要する者、高度な技術能力を持つ者等多様な人材を適材適所で活用する「ダイバーシティ経営」が有効となる。
- ▷ 女性役員や管理職登用については忌避感と阻害要因がいろいろあるが、嫌がる前に女性が管理職等になるメリットを考えなければならない。
- ▷ SDGsについての日本の達成状況をみると女性の活躍(ジェンダー平等)と環境変動等の評価が低く、とりわけ政治や経済の分野での男女差は国際的にも深刻な状態であるが、協同組合では女性の農協組合長や漁協組合長(県連合会長)も選出されており、JAや生協の女性部グループが協同組合活動を盛り上げている事例もある。群馬県でもかつて女性森林組合長がいらしたこともあるので、特に女性職員の皆様も自ら森林組合を盛り上げる活動やネットワーク構築を検討されたい。
- ▷ SDGs取組は達成しやすい目標(ターゲット)のみを選択するのではなく、全ての目標達成がそもそもの目的である。

等が講演主旨であったが、ご主人のご実家が群馬(安中市)ということで、協同組合愛に加え上州愛に溢れた、パワフルでありたいご講義に、聴講者一同とても元気をいただいた。

阿高先生には懇親会にも参加いただき、親しく交流させていただいたが、お陰様で県内森林組合系統職員の結束と絆がより強固になったことを実感し、たいへん有意義な総会となった。

群馬県森林組合職員連盟 令和5～6年度役員名簿

役職	支部	氏名	森林組合
会長	東部	栗原 和人	桐生広域
副会長	多野・藤岡	藤田 高広	上野村
副会長	県森連	高橋 伸幸	森林組合連合会
理事	渋川	石塚 征人	赤城南麓
理事	多野・藤岡	坂尾 民恵	上野村
理事	高崎	阿久津 さとみ	烏川流域
理事	高崎	吉田 大希	烏川流域
理事	吾妻	春原 淳也	吾妻
理事	吾妻	茂木 万穂	吾妻
理事	県森連	桑名 秀昭	森林組合連合会
監事	渋川	藍原 明子	渋川広域
監事	利根・沼田	河合 英治	利根沼田
監事	甘楽・富岡	茂木 祐太	南牧村
書記	県森連	佐々木 奈美	森林組合連合会
書記	県森連	菊池 正基	森林組合連合会

第54回群馬県優良素材展示会 開催

去る令和5年12月6日(水)に恒例となっている「第54回群馬県優良素材展示会」が前橋木材共販所で開催された。

この展示会は、県内の優良木材の展示を行い、需要に即応した優良材の生産を奨励し、県内林業の発展と県産木材の振興を図るもので、今回も各地区からスギ、ヒノキ計26点に及ぶ良材が出品された。事前に行われた審査会の結果、下仁田町森林組合出品のスギ4m、30～36cmが最優秀賞(林野庁長官賞、群馬県知事賞)に輝いた。

午前中に表彰式が行われ、午後には開催された優良素材展示市では入賞した素材を中心に軒並み高値で落札された。

- ◇最優秀賞 (林野庁長官賞・群馬県知事賞) 下仁田町森林組合 (群馬県知事賞) (有) 塩浦木材

- ◇優秀賞 (関東森林管理局長賞) 桐生広域森林組合 吾妻森林組合

- ◇優良賞 (群馬県森林組合連合会長賞) 木村光一
- ◇技能賞 (群馬県木材組合連合会長賞) 佳純林業(株)
- ◇努力賞 (群馬県林業改良普及協会賞) 南牧村森林組合



▲優良素材

森林の仕事ガイダンス(東京・群馬) 開催

「森林の仕事ガイダンス」が令和5年12月2日(土)東京国際フォーラムにて開催された。

ガイダンス会場では現役フォレストワーカーによるトークショーやみどりの大使の上村さや香さんによる「森で愛ましよう」の歌唱を行い、林業に興味のある方へ林業の色々な面についてアピールを行った他、44都道府県がブースを出展し、林業の仕事内容や、移住等の相談に応じた。

群馬県ブースの相談者は首都圏に在住の方が多く、「職業の一つとして林業を考えている」、「情報収集をして考えたい」と言った就業に慎重な意見が多かった。相談者は20人で男性16人、女性4人、平均年齢41歳だった。



▲東京ガイダンス

また「群馬森林の仕事ガイダンス」を12月16日(土)ホテルシーネ新前橋で開催した。ガイダンス会場では、群馬県林業振興課、林業労働力確保支援センター、県内の6経営体にご協力いただき、森林、林業に興味のある相談者に、林業や、就業への道のり、「緑の雇用」事業内容説明、相談を行い、その後経営体でそれぞれの事業内容などについて説明を受けた。相談者は県内外から18名(うち女性1名)平均年齢52歳で、近年に無く高齢の相談者が多かった。

相談者の中には改めて経営体の現場等に見学に行く方もいて、今後就業に結び付くことに期待したい。



▲エリアガイダンス(群馬開催)

全国森林組合代表者大会 開催

去る10月24日に東京都中央区銀座プロッサム中央会館において全国森林組合代表者大会が森林組合関係者ら600名の参加で開催された。

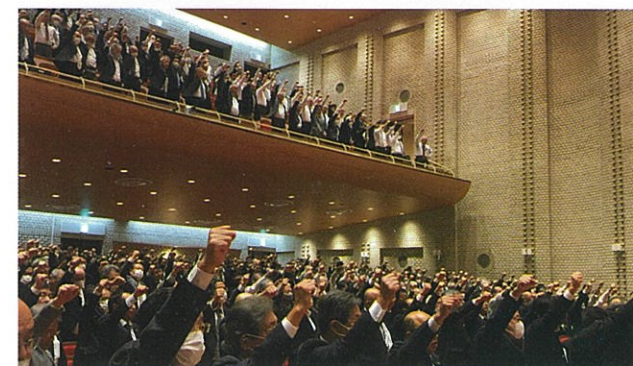
大会では、カーボンニュートラルの実現や災害に強い「緑の国土強靱化」に向けた適切な森林管理と系統運動「JForestビジョン2030」の推進など、森林整備の一層の推進の決意がされた。また、系統の発展に功績のあった功労者表彰も行われた。

意見表明は以下の事項で決議された。

1. カーボンニュートラル・国土強靱化に向けた森林整備・保全と適切な管理の推進
- ・ 森林整備事業予算の安定確保(花粉発生源対策を含む)
- ・ 再造林対策の強化等森林整備事業の充実
- ・ 路網整備の充実・強化と予算の確保
- ・ 施業集約化・森林境界明確化への支援強化
- ・ シカ等による森林病虫害獣害への対策強化・拡充
- ・ 国土強靱化のための森林整備事業の強化
- ・ 森林由来J-クレジットへの支援の強化



▲全森連 中崎会長挨拶



▲頑張ろう三唱を行う参加者

2. 人材の確保・育成と労働安全対策推進強化
  - ・ 「緑の雇用」や森林プランナー等人材確保・育成対策予算の拡充
  - ・ 林業における技能検定創設及び外国人材受入れ条件整備の支援強化
  - ・ 労働安全確保対策推進強化
3. 生産性向上と需要拡大による国産材の供給・利用促進等
  - ・ 国産材のシェア拡大及び持続的かつ安定的な供給体制

- の構築
  - ・ 木材の需要拡大と価格安定対策の推進
  - ・ ICT技術の活用・デジタル化の推進や高性能林業機械の導入・更新のための支援
4. 森林環境譲与税の譲与基準の見直し
5. 林業及び山村振興等に必要な林業税制の改正
6. 激甚な災害からの復旧・復興

## 全国森林組合職員連盟 全国研究集会 松江市で開催

9月8日、9日に全国森林組合職員連盟主催の全国研究集会が島根県松江市内のホテル等で開催され、本県の森林組合職員連盟からも吉野昇会長ら3名が参加した。

初日はまず島根大学 伊藤勝久名誉教授による「地域森林管理と森林環境譲与税」と題した基調講演に続き、邑智郡森林組合（島根県）、津山市森林組合（岡山県）、久万広域森林組合（愛媛県）から森林環境譲与税を活用した森林整備や人材育成についての取組事例報告があった。いずれの森林組合も管内市町村に交付される森林環境譲与税の推移や林業予算を十分把握されたうえで、役所担当部所の企画や事務手続き等をバックアップしつつ、森林組合としての要望を先々を見据え計画的かつ主体的に提案し事業メニュー創設し、これを森林組合事業として安定的に確保するという賢明で戦略的な取り組みが組織的になされている。これらについては、本県系統もおおいに見習う必要があり、大変参考となった。

夕食交流会では、久しぶりに全国の森林組合系統役員が情報交換し懇親を深められ、大変有意義であった。

二日目は隣の鳥取県境港市の（株）日新の大手合板工場を視察した。令和4年6月の火災から復興したばかりの最新ラインであったが、同工場含む山陰地区の同社工場での年間原木消費量は42万m<sup>3</sup>であり、うち77%が国産材で賄われていて一部には地マツ（アカマツ）や信州カラマツも含まれているとのことであった。また、同社の四国工場と三重工場ではそれぞれ18万m<sup>3</sup>、10万m<sup>3</sup>の年間原木消費量であるが100%国産材であるということで、国産材活用による国内森林資源活用、森林整備推進への貢献に大変感心した。

なお、この後は翌月には「神在月」を迎える出雲大社を参拝し、国産材需要や国産材率の安定的向上と森林組合系統の発展を祈願した。



▲研究集会



▲会場の様子

### あとがき

昨年を振り返ってみると、新型コロナ禍が収束に向かい、人や物の動きも活発になり、元の日常生活に戻つつあるものの、依然と続く不安定な国際情勢や夏の猛暑、生活物資の高騰により家計を圧迫するなどあまり明るい年ではありませんでした。

今年は、そんなご時世にもめげず、怪我などせず健康に過ごせるように、少しでも明るく話題が溢れる素敵な一年になるよう心からお祈り申し上げます。

(梶川)

